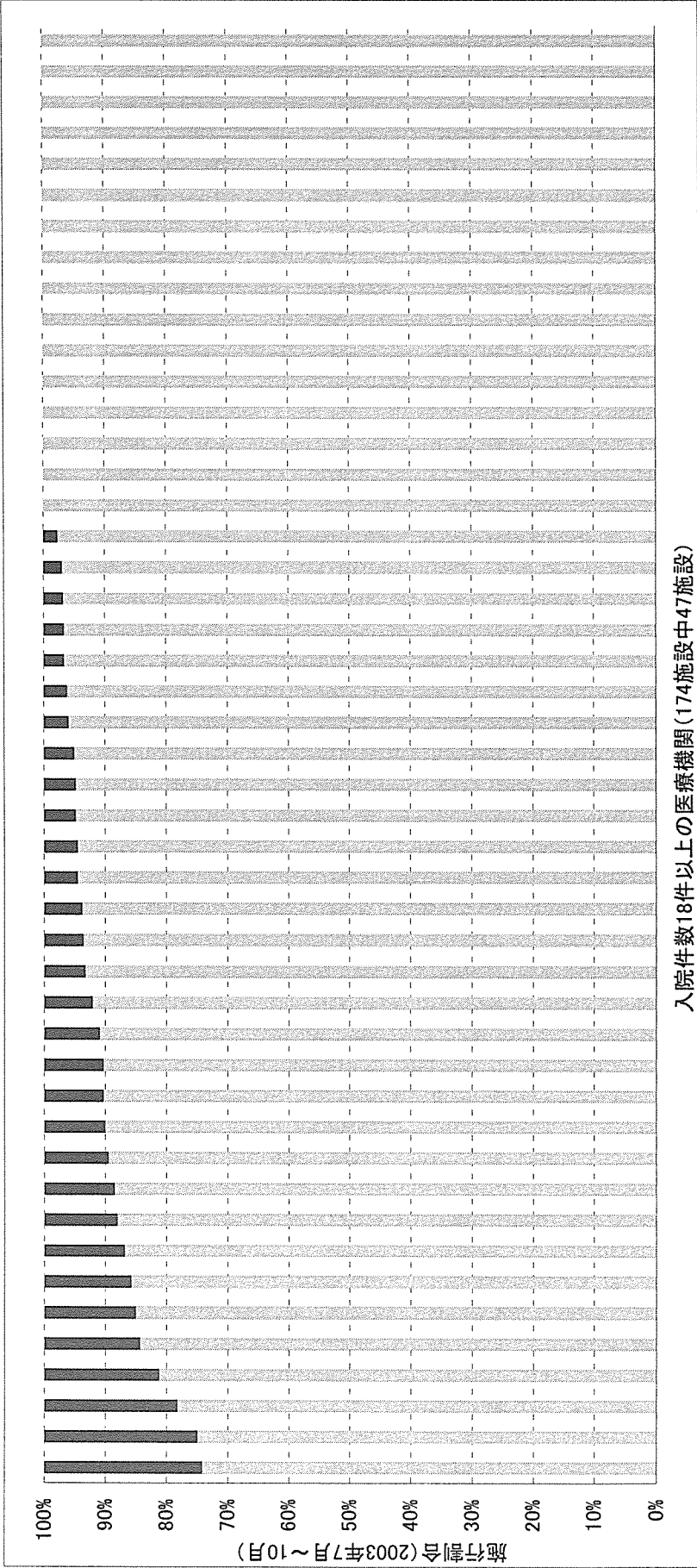


急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術・経皮的冠動脈インターベンションの施行割合(N = 1,469)

解析対象DPC番号の範囲 0500303x02/ 0500303x03/ 0500303x04/ 0500303x05														パーセンタイル					
分類名	解析内容		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95						
	冠動脈バイパス術施行割合		6%	7%	0%	26%	0%	0%	0%	5%	10%	15%	21%						
	経皮的冠動脈インターベンション施行割合		94%	7%	74%	100%	79%	85%	90%	95%	100%	100%	100%						



【図の説明】

件数上位25% (18件以上) の施設を解析対象とした。

■ : 経皮的冠動脈インターベンション [Kコード: K614, K614-2, K614-3, K615]

■ : 冠動脈バイパス術 [DPC手術コード: 02, 03]

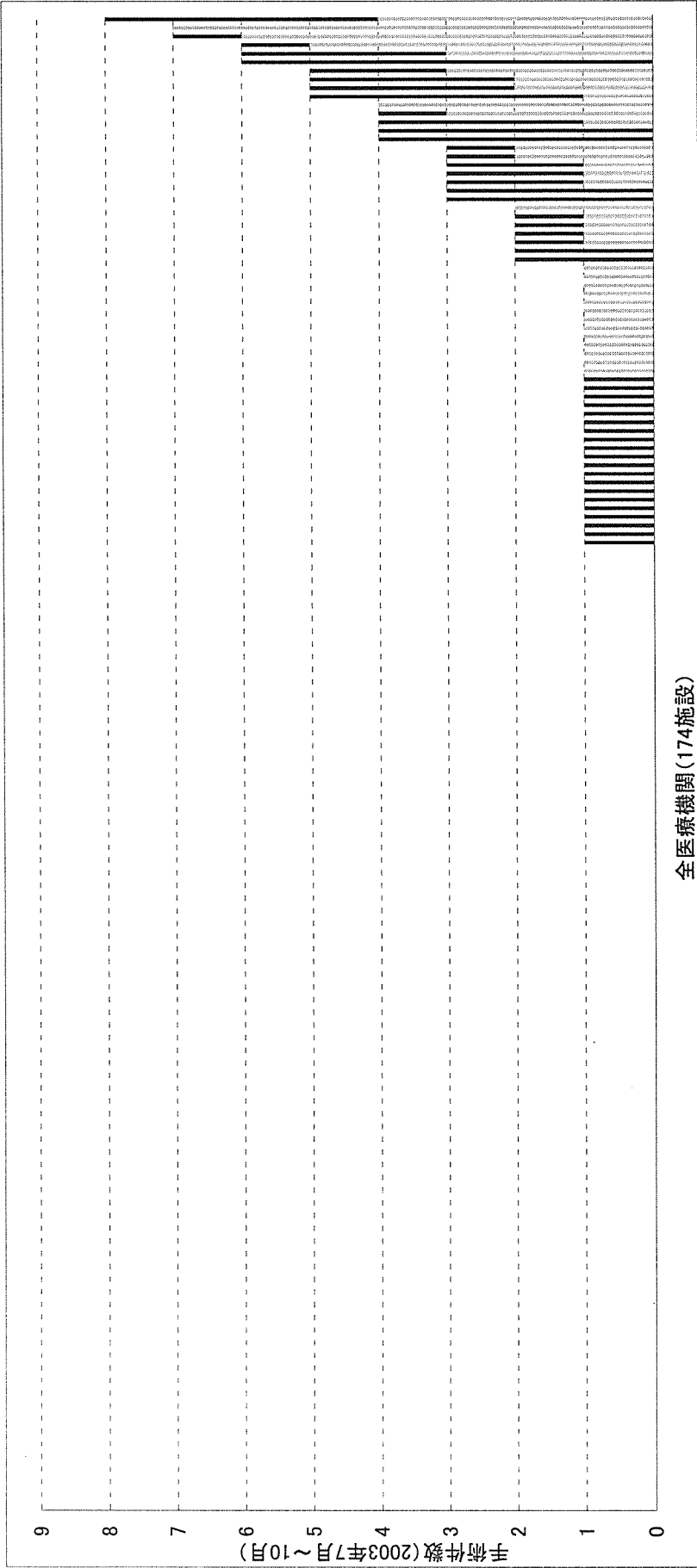
【コメント】

4か月間の入院権数が18件以上 (件数上位25%に相当) であった47施設を解析対象とした。全体の94%の症例で経皮的冠動脈インターベンションが選択されており、最も少ない施設でもその割合は74%であった。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術の術式別施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0500303x02/ 0500303x03/ 0500303x04/ 0500303x05

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
							5	10	25	50	75	90	95	
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	人工心肺を使用する冠動脈バイパス術 (CABG) 施行件数	81	0.5	1.0	0	6	0	0	0	0	1	1	3	
	人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB) 施行件数	67	0.4	1.0	0	7	0	0	0	0	0	1	2	



【図の説明】

人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB) [DPC手術コード:02]

人工心肺を使用する冠動脈バイパス術 (CABG) [DPC手術コード:03]

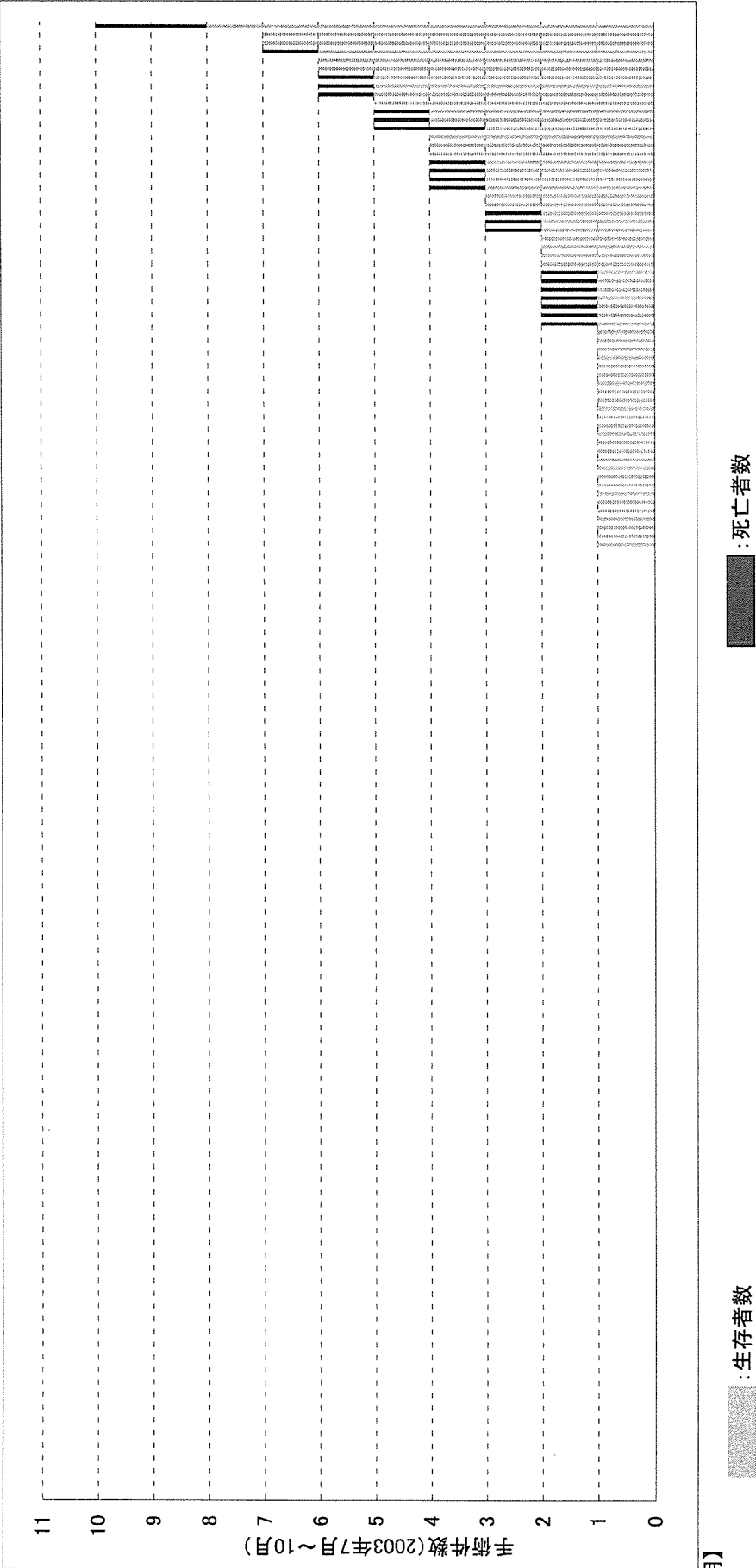
【コメント】

174施設中62施設(全体の36%)で急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞症例に対する冠動脈バイパス術 (CABG) が施行されていたが、施行件数の中央値=0件、最大値=6.7件程度であり、件数は少なかった。CABG施行症例のうち、人工心肺を使用しないCABG (OPCAB) の施行割合は全体の45%であった。OPCABが全く実施されていない施設もみられた。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の冠動脈バイパス術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0500303

分類名	解析内容	件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセントイル						
							5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	術後死亡者数	24	0.1	0.4	0	2	0	0	0	0	0	1	1
	冠動脈バイパス術(OPCABおよびCABG)後生存者数	148	0.9	1.6	0	8	0	0	0	0	1	3	5



【図の説明】

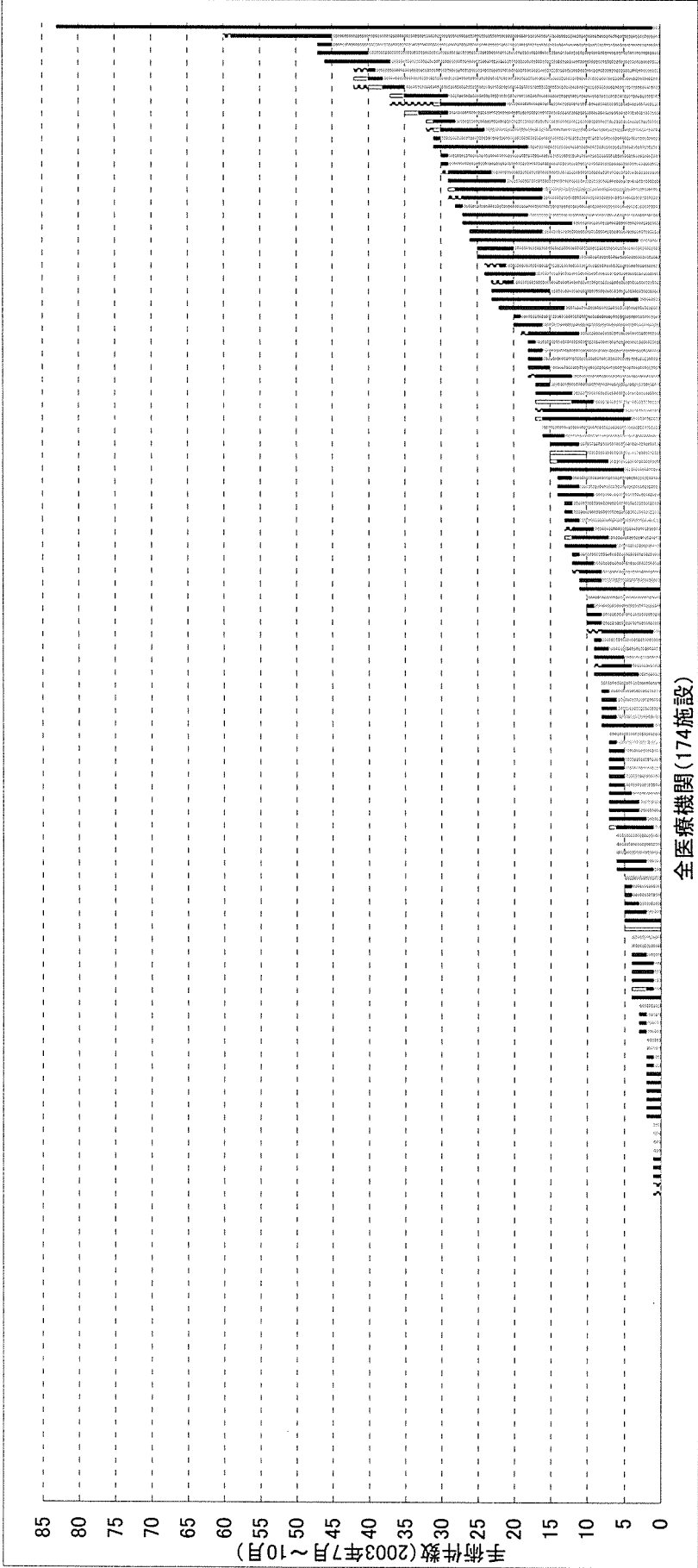
【コメント】

174施設中62施設(36%)において冠動脈バイパス術症例が4か月間に1件以上あった。急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞症例に対し、冠動脈バイパス術が施行されることは少なかった。およそ半数の施行施設において1～2件の死亡が発生していた(全体の死亡率は14%)。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンションの施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0500303x04/ 0500303x05

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	アテレクトミー	29	0.2	0.6	0	6	0	0	0	0	0	1	1
	経皮的冠動脈血栓切除術	33	0.2	0.7	0	5	0	0	0	0	0	0	1
	経皮的冠動脈形成術	588	3.4	7.2	0	82	0	0	0	2	4	9	11
	経皮的冠動脈ステント留置術	1,363	7.8	10.1	0	45	0	0	0	4	12	21	29



全医療機関(174施設)

【図の説明】

経皮的冠動脈ステント留置術[DPC手術コード:04およびKコード:K615]

経皮的冠動脈血栓切除術[DPC手術コード:04およびKコード:K614-2]



経皮的冠動脈形成術[DPC手術コード:05およびKコード:K614]

アテレクトミー[DPC手術コード:04およびK614-3]

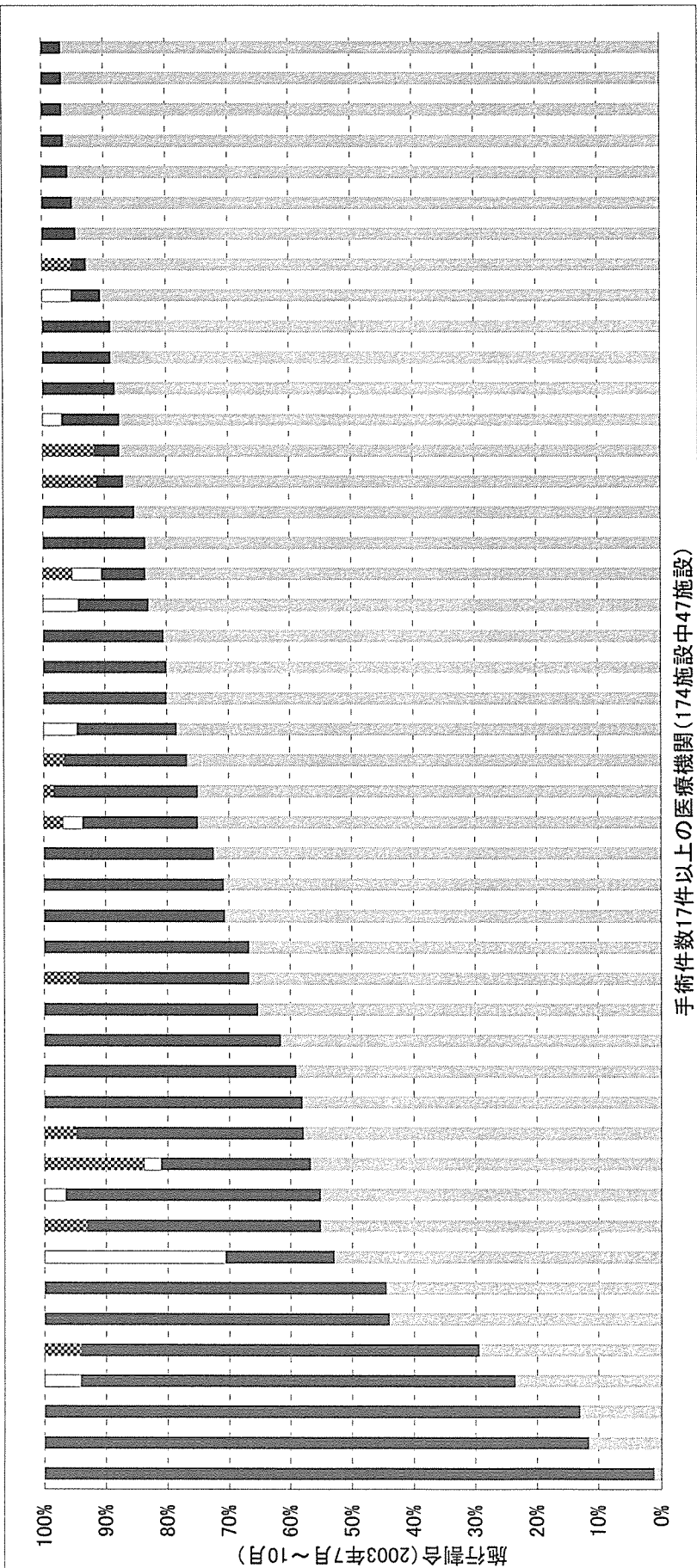
【コメント】

急性心筋梗塞や再発性心筋梗塞の治療として経皮的冠動脈インターベンション(PCI)を施行する施設は多く、全体の約80%(174施設中138施設)で実施されていた。施行件数には施設間で大きなバラツキが認められた。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンションの施行割合 (N = 1,378)

解析対象DPC番号の範囲 0500303x04/ 0500303x05

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル									
						5	10	25	50	75	90	95			
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	アテレクトミー施行割合	2%	3%	0%	16%	0%	0%	0%	0%	1%	6%	8%			
	経皮的冠動脈血栓切除術施行割合	1%	5%	0%	29%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	6%			
	経皮的冠動脈形成術施行割合	27%	24%	2%	99%	3%	4%	8%	20%	37%	59%	82%			
	経皮的冠動脈ステント留置術施行割合	70%	24%	1%	97%	16%	38%	58%	77%	88%	95%	97%			



【図の説明】

件数上位25% (17件以上) の施設を解析対象とした。

経皮的冠動脈ステント留置術 [DPC手術コード: 04およびKコード: K615]

経皮的冠動脈血栓切除術 [DPC手術コード: 04およびKコード: K614-2]

経皮的冠動脈形成術 [DPC手術コード: 05およびKコード: K614]

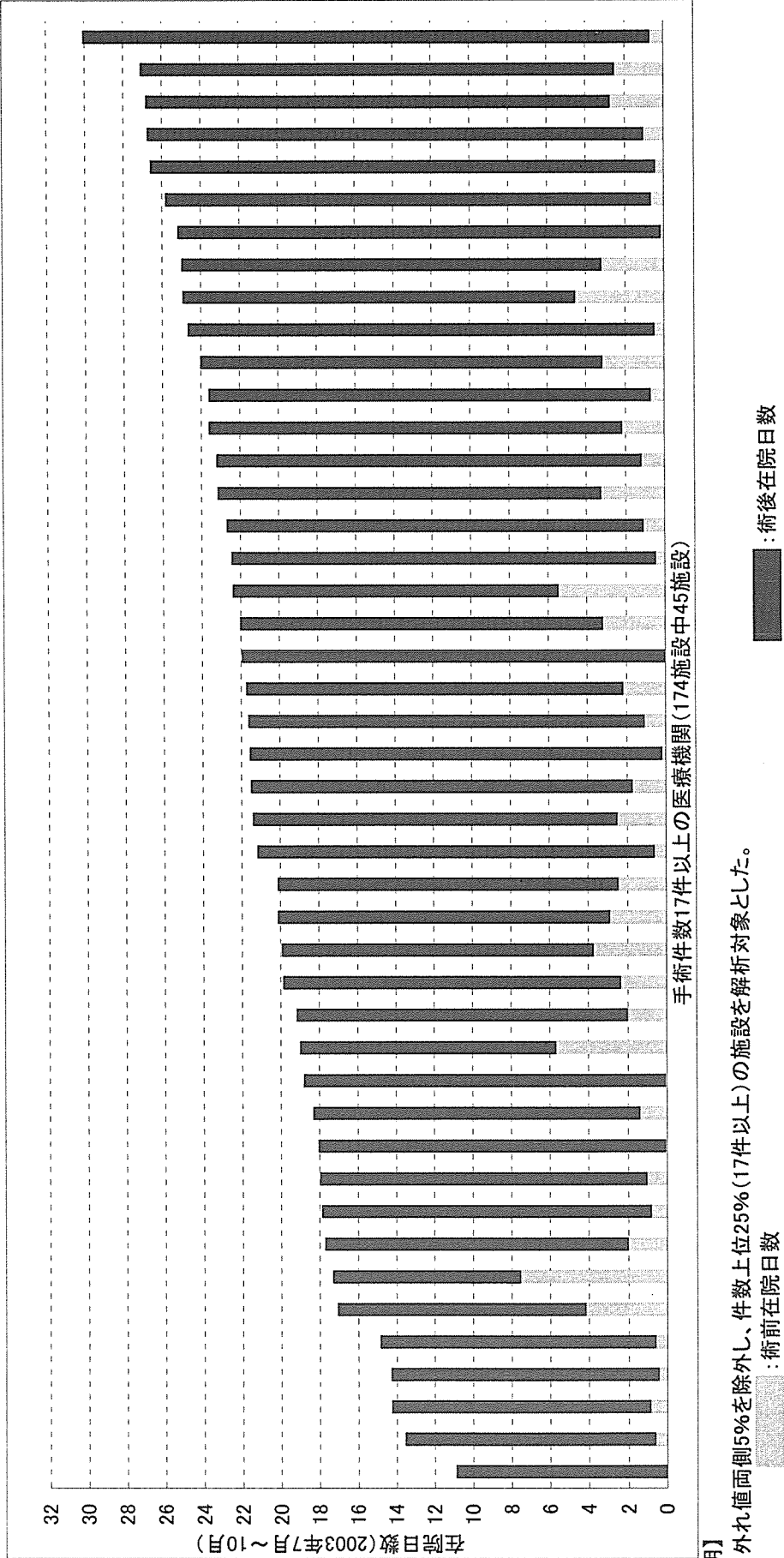
アテレクトミー [DPC手術コード: 04およびK614-3]

【コメント】

4か月間で手術件数17件以上 (件数上位25%に相当) の47施設を解析対象とした。本邦では、欧米諸国と比較してステント留置術の施行割合が高いと指摘されているが、本解析においてもその傾向が示された (平均70%)。施設別にみたステント施行割合は1%から97%まで分布しており、大きなバラツキが認められた。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における平均在院日数 (N = 1,256)

解析対象DPC番号の範囲			0500303x04および0500303x05										
分類名	解析内容		平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞におけるPCI施行症例	在院日数		21.1	4.1	10.9	30.1	14.3	15.8	18.3	21.6	23.6	26.3	26.8
	術後在院日数		19.3	4.3	9.8	29.4	12.9	13.4	17.0	19.6	22.0	24.9	25.6
	術前在院日数		1.9	1.7	0.0	7.5	0.0	0.1	0.6	1.2	2.7	4.0	5.3



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (17件以上) の施設を解析対象とした。

術前在院日数

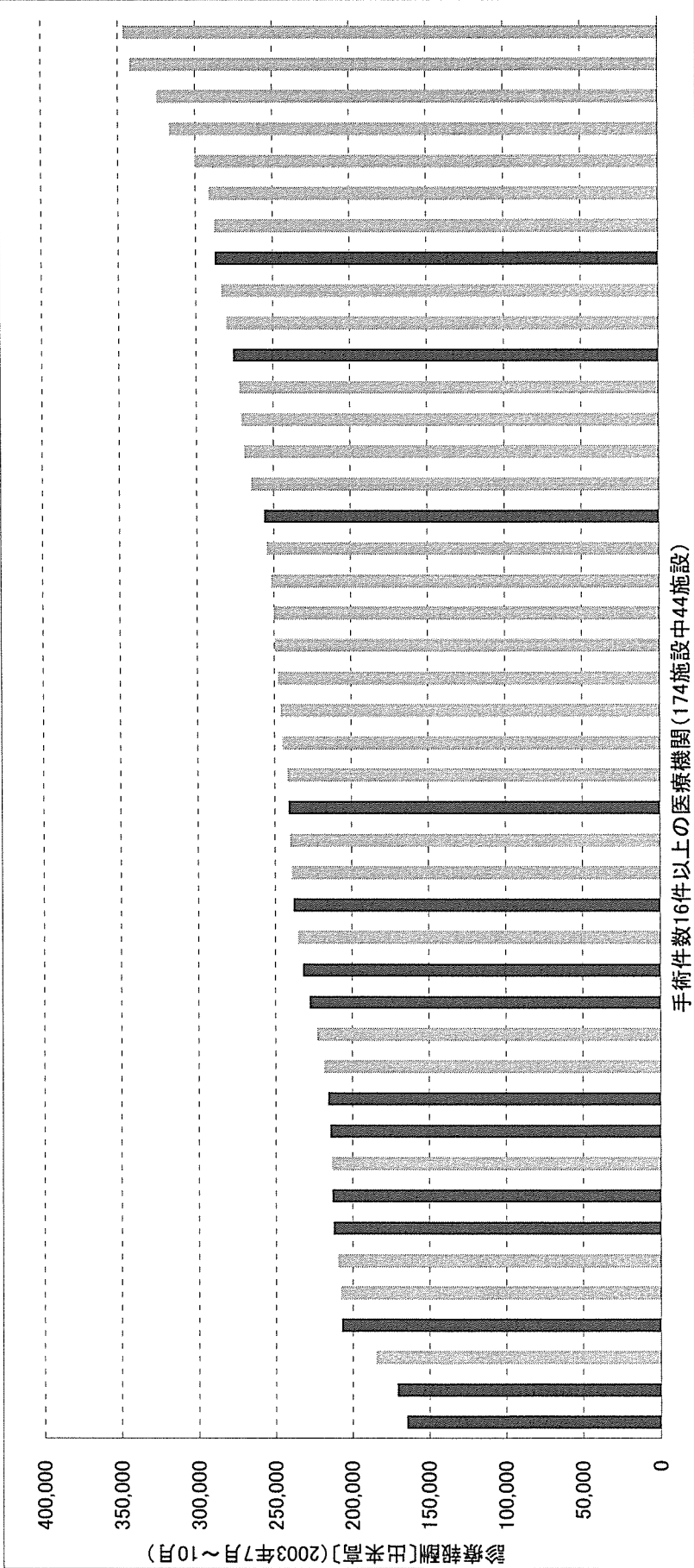
【コメント】

外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数17件以上の45施設を解析対象とした。術前在院日数の中央値は1.2日であるが、一部ではあるが術前在院日数が一週間程度の施設もあり、施設間で大きなバラツキが認められた。

急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞の経皮的冠動脈インターベンション施行症例における一入院当たり診療報酬〔出来高〕平均値 (N = 1,279)

解析対象DPC番号の範囲 0500303x04および0500303x05

解析対象DPC番号の範囲		0500303x04および0500303x05											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
						5	10	25	50	75	90	95	
	急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞におけるPCI施行症例	249,081	40,873	164,980	346,424	187,832	208,217	217,566	245,206	272,977	297,461	323,327	
	特定機能病院(30施設)〔出来高換算総点数〕	260,084	39,480	184,413	346,424	208,458	213,177	239,258	250,933	282,424	317,462	334,129	
	その他の参加病院(14施設)〔出来高制度の総点数〕	225,502	34,215	164,980	287,203	168,887	181,856	212,695	221,733	240,180	269,868	279,745	

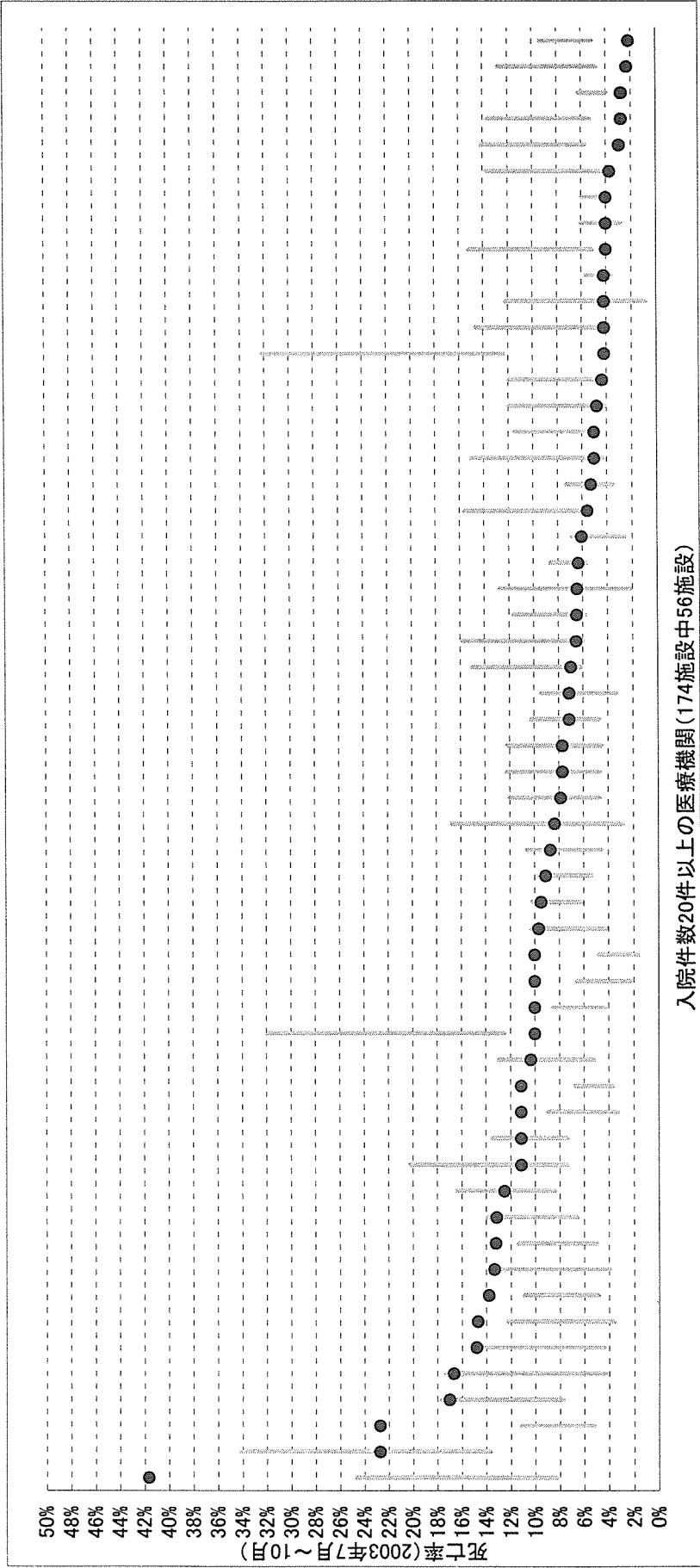


【図の説明】 外れ値両側5%を除外し、件数上位25% (16件以上) の施設を解析対象とした。単位は診療報酬点数である。
[特定機能病院] : 特定機能病院
[その他の参加病院] : その他の参加病院

【コメント】 外れ値として両側5%を除外し、件数で上位25%にあたる手術件数16件以上の44施設を解析対象とした。全体的にみた1入院あたりの診療報酬は約25万点であるが、特定機能病院の平均値はその他の参加病院よりも4万点弱高額であった。

急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞における観測死亡率と予測死亡率(N=1,990)

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
						5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞	観測死亡率	8.7%	6.5%	2.2%	41.7%	2.8%	3.9%	4.7%	7.7%	11.1%	14.8%	18.4%
	予測死亡率上限値	9.2%	6.1%	4.8%	34.1%	6.0%	6.7%	9.6%	12.2%	15.0%	17.5%	26.5%
	予測死亡率下限値	8.3%	2.4%	0.9%	13.7%	2.3%	2.8%	3.8%	4.7%	5.8%	7.6%	9.4%



入院件数20件以上の医療機関(174施設中56施設)

【図の説明】※入院の契機となった傷病名が21、122のいずれかで入力された症例に限定した。

20件以上の入院件数を有する施設のみを解析の対象とした。

● 観測死亡率【死亡件数 / 入院件数】

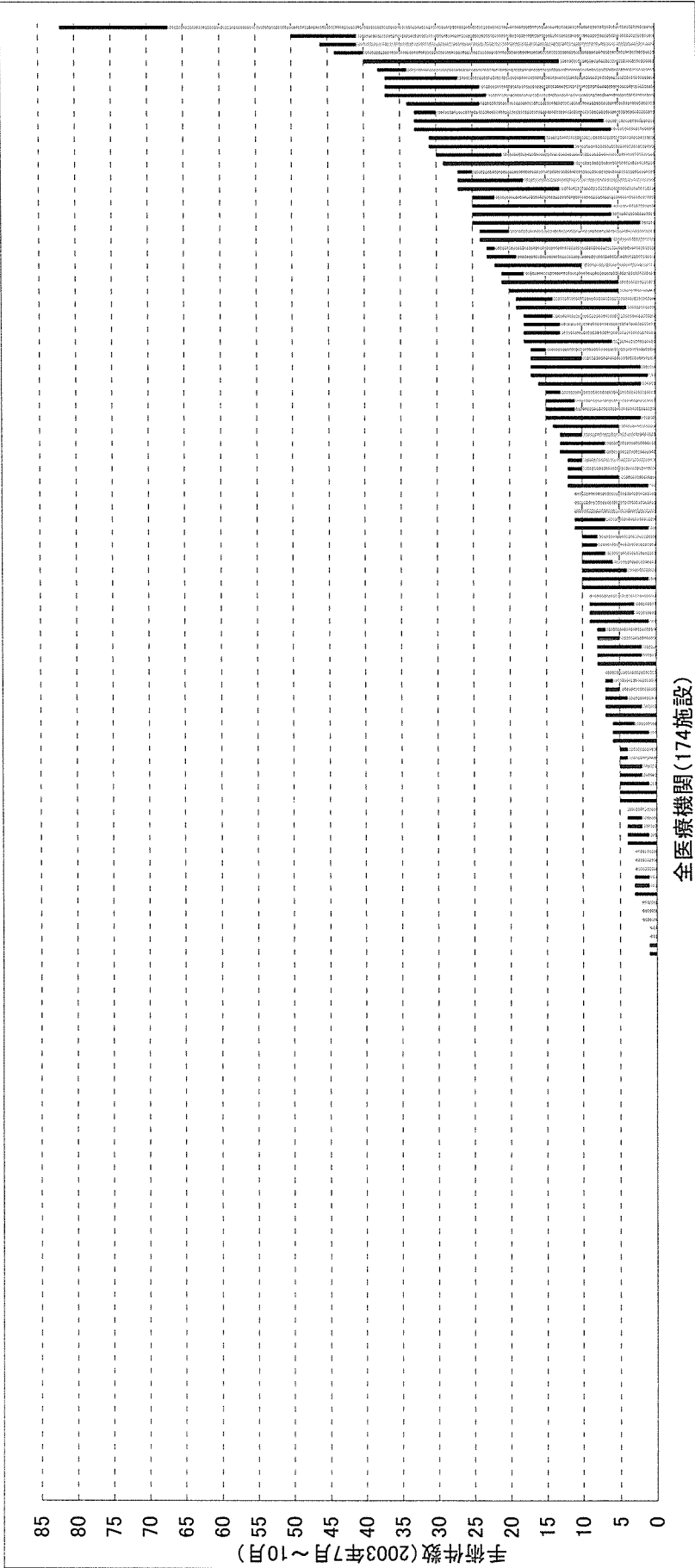
—— 予測死亡率95%信頼区間【予測死亡率±1.96×予測死亡率の標準誤差】

【コメント】病院別に観測死亡率(粗死亡率)を算出し、次にDPCデータに含まれる情報の中から、死亡に関連する要因(重症度関連要因・リスク要因)を用いて死亡率の予測モデルを構築し、多重ロジスティック回帰分析の結果から病院ごとに予測死亡率とその95%信頼区間を計算した。予測能の高さを示す指標(C-statistics)は、0.83である。解析対象となった56施設のうち、12施設において治療成績(観測死亡率)が予測死亡率の推定範囲よりも低く、急性心筋梗塞の診療パフォーマンスが良好であることを示唆している可能性が考えられた。

虚血性心疾患の冠動脈バイパス術の術式別施行件数

解析対象DPC番号の範囲 0500303x02/ 0500503x02/ 0500303x03/ 0500503x03/

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセントイル						
							5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	人工心肺を使用する冠動脈バイパス術 (CABG)	729	4.2	6.0	0	27	0	0	0	2	6	14	17
	人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB)	994	5.7	9.6	0	67	0	0	0	2	7	17	24



【図の説明】

：人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB) [DPC手術コード:02] ：人工心肺を使用する冠動脈バイパス術 (CABG) [DPC手術コード:03]

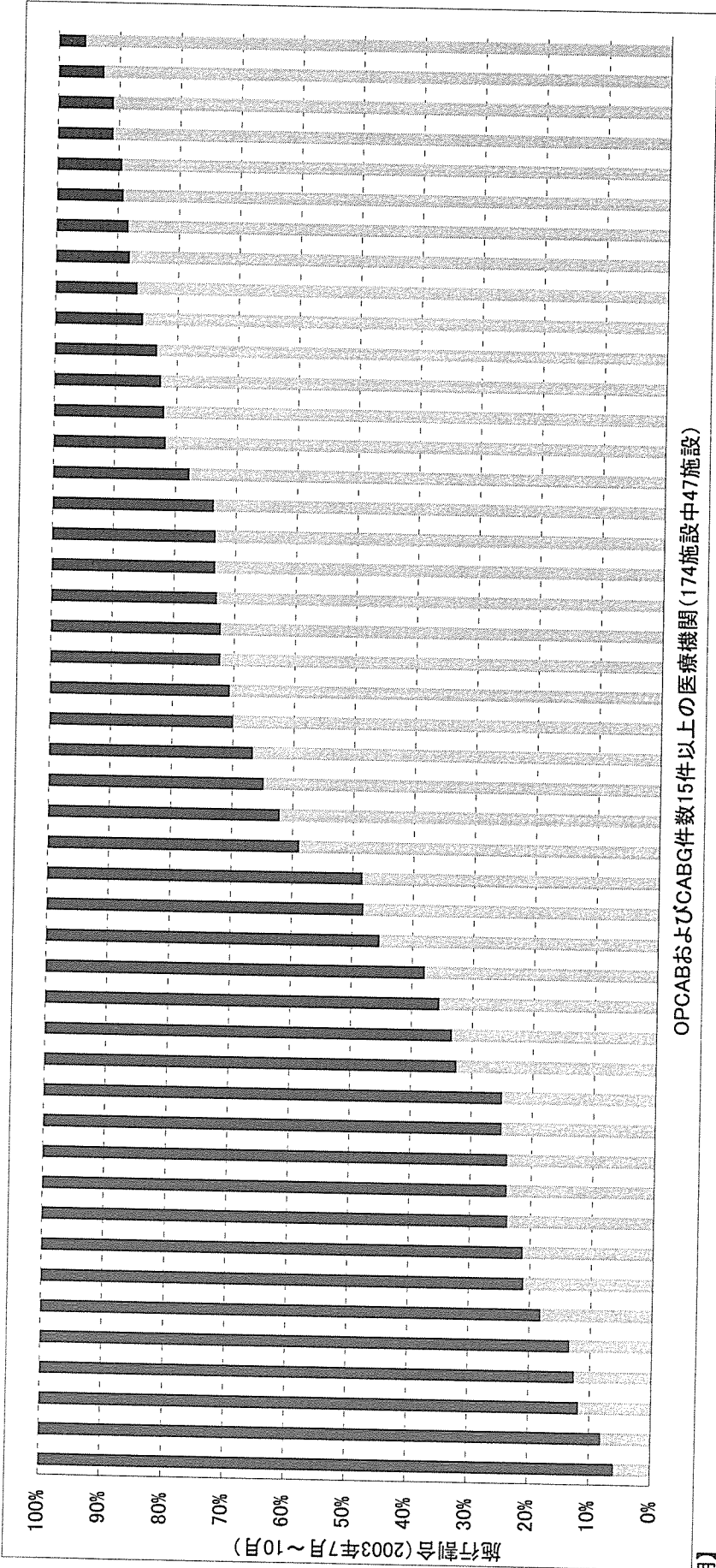
【コメント】

174施設中110施設 (63%)において冠動脈バイパス術 (CABG) がなされていた。CABG施行症例のうち、人工心肺を使用しないCABG (OPCAB) の施行割合は全体の57%であった。OPCABを全く実施しなかった施設もみられた。中央値では、両術式は2件であり同数であるが、一部の施設において集中的にOPCABが施行されているため、総数ではOPCABが約200件多く施行されていた。

虚血性心疾患の冠動脈バイパス術の術式別施行割合 (N = 1,278)

解析対象DPC番号の範囲 0500303x02/ 0500503x02/ 0500303x03/ 0500503x03/

分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
						5	10	25	50	75	90	95
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	人工心肺を伴う冠動脈バイパス術 (CABG) の施行割合	44%	29%	4%	94%	9%	11%	18%	33%	75%	84%	88%
	人工心肺を伴わない冠動脈バイパス術 (OPCAB) の施行割合	56%	29%	6%	96%	12%	16%	25%	67%	82%	89%	91%



【図の説明】

件数上位25% (15件以上) の施設を解析対象とした。

■ : 人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術 (OPCAB) [DPC手術コード:02]

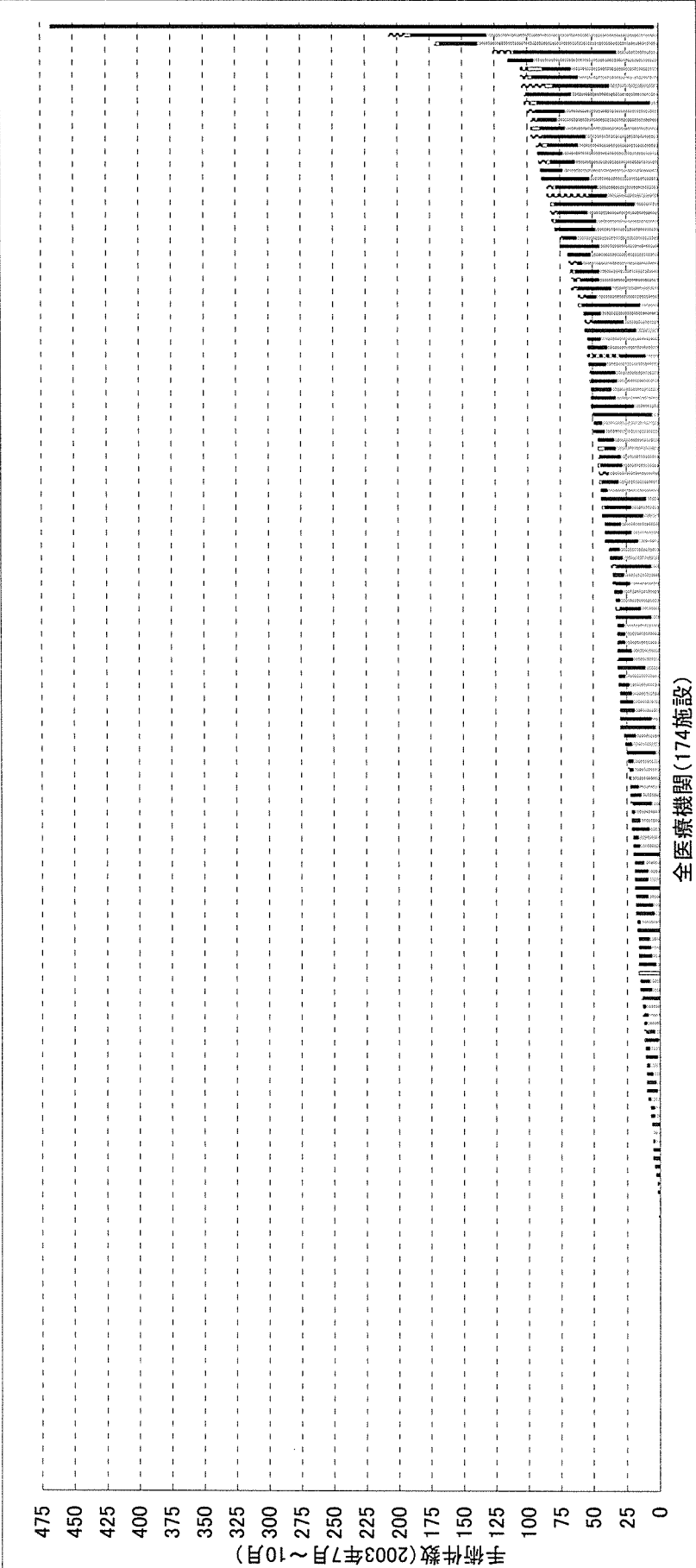
■ : 人工心肺を使用する冠動脈バイパス術 (CABG) [DPC手術コード:03]

【コメント】

手術件数が上位25%に相当する15件以上の症例を有する47施設に限定して解析をおこなった。冠動脈バイパス術 (CABG) の術式内訳は、人工心肺を使用しないCABG (OPCAB) とCABGをほぼ同数の比率で施行している医療機関は少なく、多くの施設ではどちらかの術式に偏った選択である現状が明らかとなった。全体的にはOPCABの施行割合がわずかに高かった。

虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンションの施行件数

解析対象DPC番号の範囲										0500303x04/ 0500503x04/ 0500503x05/ 0500503x05/ 0500503x06/ 0500503x07/ 0500503x08										パーセンタイル				
分類名	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95										
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	アテレクトミー		239	1.4	4.0	0	32	0	0	0	0	1	5	7										
	経皮的冠動脈血栓切除術		104	0.6	1.8	0	16	0	0	0	0	0	2	3										
	経皮的冠動脈形成術		2,565	14.7	36.9	0	463	0	0	2	8	18	31	38										
	経皮的冠動脈ステント留置術		3,534	20.3	24.2	0	138	0	0	0	12	32	52	66										



【図の説明】

・経皮的冠動脈ステント留置術[Kコード:K615]
・経皮的冠動脈血栓切除術[Kコード:K614-2]
※急性心筋梗塞・再発性心筋梗塞(0500303)はKコード、慢性虚血性心疾患(0500503)はDPC手術コードを用いて抽出した。

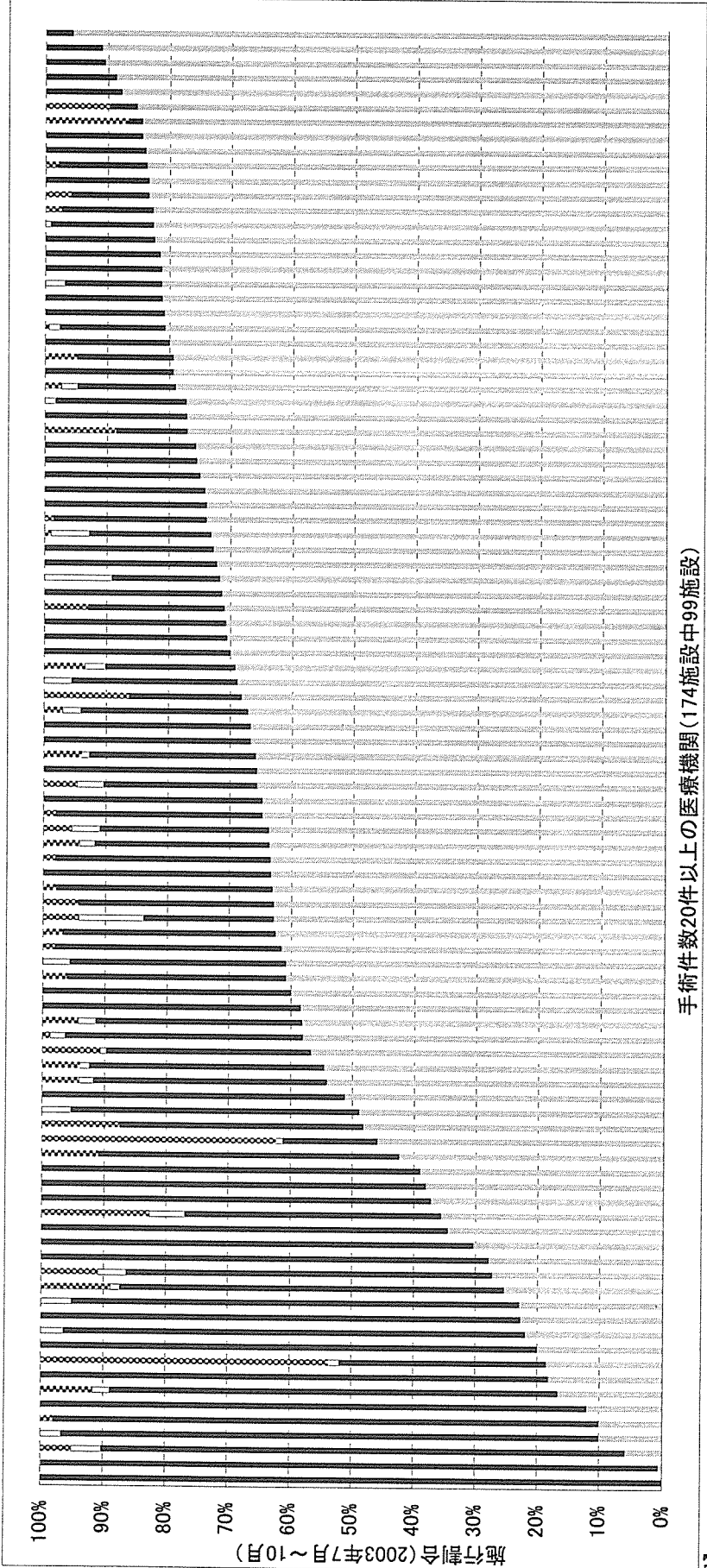
【コメント】

174施設中142施設(82%)において4か月間に1例以上の経皮的冠動脈インターベンション(PCI)施行手術症例があった。全体的にはステント留置術の施行割合が大きかった(平均55%)。施設別のステント施行件数は中央値12件、最小0件、最大138件と、大きなバラツキが認められた。経皮的冠動脈形成術もその施行件数には、施設間で大きなバラツキが認められた(中央値8件、最小0件、最大463件)。

虚血性心疾患の経皮的冠動脈インターベンションの施行割合 (N = 5,967)

解析対象DPC番号の範囲 0500303x04/ 0500503x05/ 0500503x06/ 0500503x07/ 0500503x08

解析対象DPC番号の範囲			0500303x04/ 0500503x05/ 0500503x06/ 0500503x07/ 0500503x08											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル								
						5	10	25	50	75	90	95		
急性心筋梗塞/再発性心筋梗塞および狭心症/慢性虚血性心疾患	アテレクトミー施行割合	3%	7%	0%	46%	0%	0%	0%	0%	5%	9%	13%		
	経皮的冠動脈血栓切除術施行割合	1%	2%	0%	11%	0%	0%	0%	0%	2%	4%	5%		
	経皮的冠動脈形成術施行割合	36%	23%	2%	100%	11%	15%	19%	29%	41%	73%	85%		
	経皮的冠動脈ステント留置術施行割合	60%	24%	0%	96%	12%	22%	49%	66%	78%	83%	86%		



【図の説明】 手術件数20件以上の医療機関(174施設中99施設)

20件以上の施設を解析対象とした。

：経皮的冠動脈ステント留置術[Kコード:K615]

：経皮的冠動脈形成術[Kコード:K614]

：経皮的冠動脈血栓切除術[Kコード:K614-2]

：アテレクトミー[Kコード:K614-3]

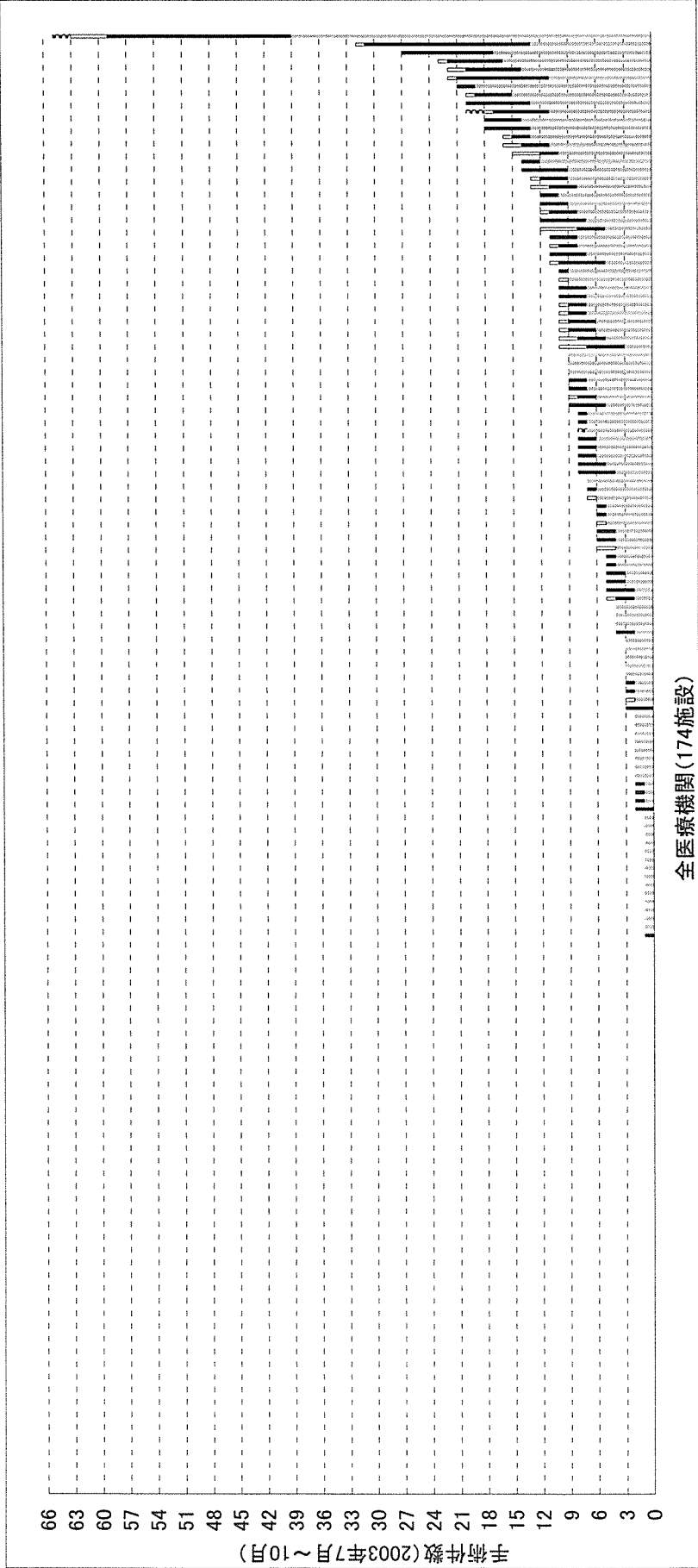
【コメント】

手術件数20件以上の99施設を解析対象とした。本邦では、欧米諸国と比較してステント留置術の施行割合が高いと指摘されているが、本解析においてもその傾向が示された(平均60%)が、ステント施行割合は0%から96%まで分布しており、大きなバラツキが認められた。経皮的冠動脈インターベンションの治療選択に当っては、ステント留置術が主流であることが確認されたが、その一方で、経皮的冠動脈形成術が主流となっている施設もあり、術式選択においてバラツキが示された。

弁膜症の手術件数

解析対象DPC番号の範囲 0500803x01/ 0500803x02/ 0500803x03/ 0500803x04

解析対象DPC番号の範囲														0500803x01/ 0500803x02/ 0500803x03/ 0500803x04										パーセントイル									
分類名	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95																			
弁膜症	口ス手術件数		5	0.0	0.2	0	2	0	0	0	0	0	0	0																			
	大動脈瘤切除術件数		44	0.3	0.7	0	4	0	0	0	0	0	1	1																			
	弁(輪)形成/切開術件数		228	1.3	2.6	0	20	0	0	0	0	2	4	5																			
	弁置換術件数		632	3.6	5.0	0	39	0	0	0	2	6	9	13																			



【図の説明】

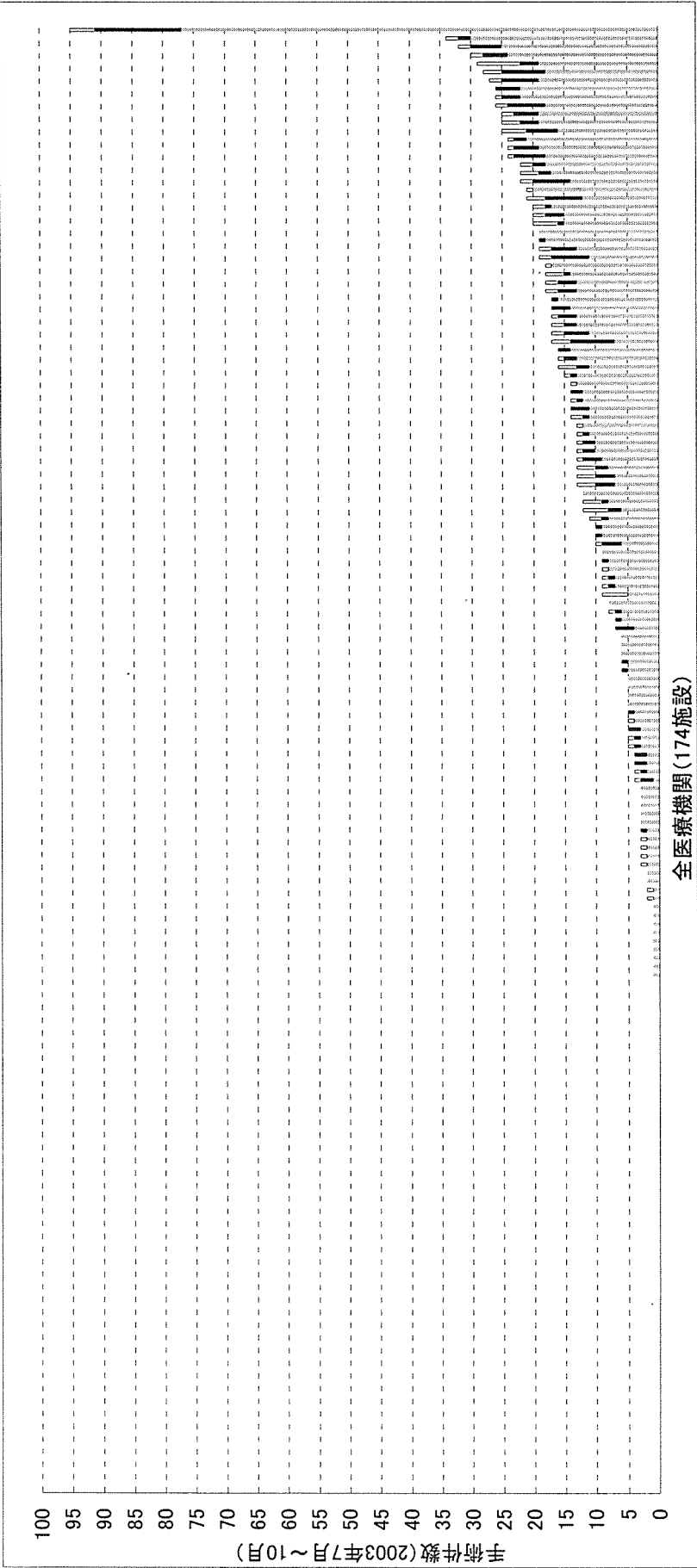
■: 弁置換術[DPC手術コード:03]
□: 大動脈瘤切除術[DPC手術コード:02]

【コメント】

4か月間において手術件数1例以上の症例があった施設は174施設中108施設(62%)であった。弁膜症の治療は弁置換術が全体の70%を占め主流となっているが、その施行件数には施設間でバラツキがみられた(中央値:6件、最小値:0件、最大値:39件)。また、大動脈瘤切除術は弁置換術のおよそ3分の1程度施行されていた。

解離性大動脈瘤・破裂性大動脈瘤・非破裂性大動脈瘤・腸骨動脈瘤症例の大動脈瘤切除術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲		パーセントイル													
050161x03/ 050162x03/ 050163x03															
分類名	解析内容		手術件数		平均値		標準偏差		最小値		最大値				
	大動脈瘤切除術施行件数(破裂性)		128		0.7		1.2		0		7				
	大動脈瘤切除術施行件数(解離性)		198		1.1		1.9		0		14				
	大動脈瘤切除術施行件数(非破裂性)		1,128		6.5		8.8		0		77				



【図の説明】

- 非破裂性大動脈瘤・腸骨動脈瘤における大動脈瘤切除術 [DPC手術コード: 050163x01～08]
- 解離性大動脈瘤における大動脈瘤切除術 [DPC手術コード: 050161x01～04および06, 07]
- 破裂性大動脈瘤における大動脈瘤切除術 [DPC手術コード: 050162x01～03および06, 07]

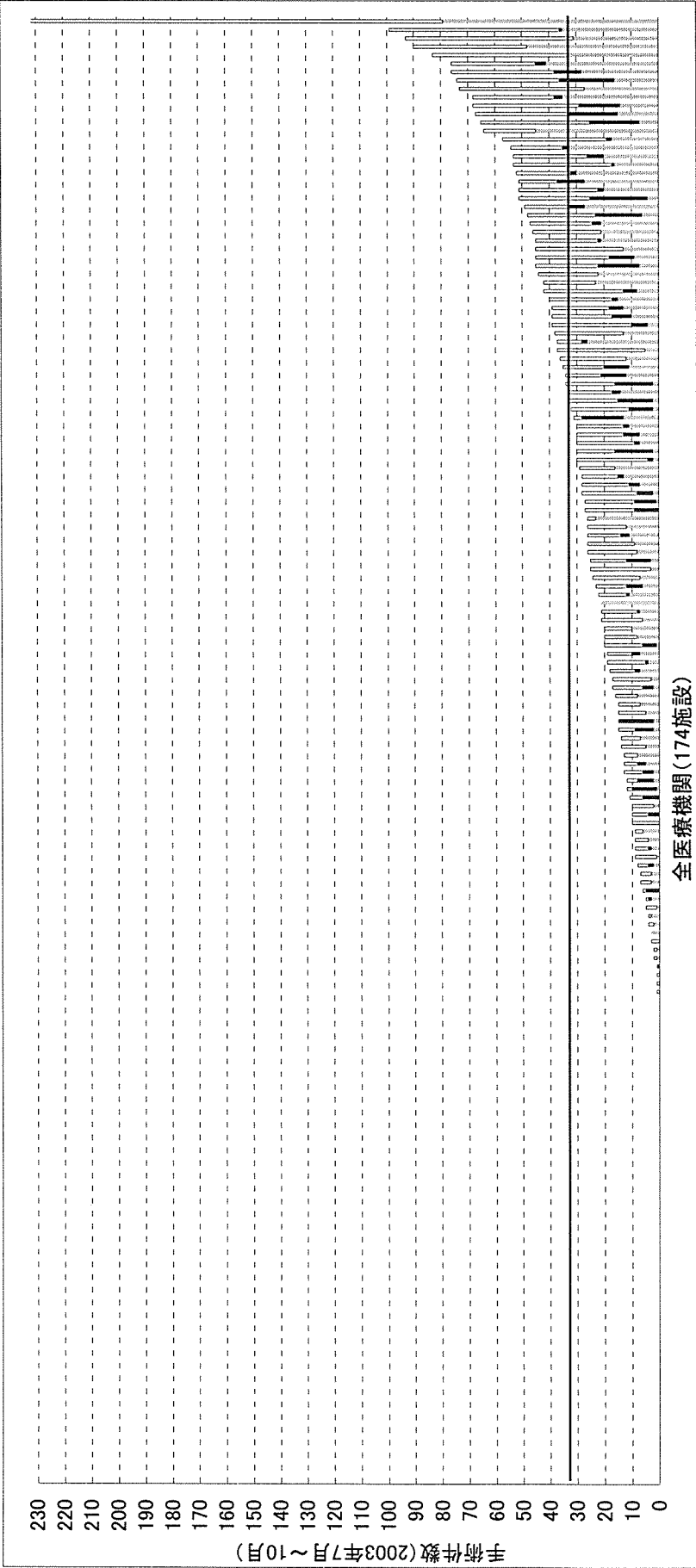
【コメント】

解離性大動脈瘤 (DPC: 050161)・破裂性大動脈瘤 (DPC: 050162)・非破裂性大動脈瘤/腸骨動脈瘤 (DPC: 050163)の症例に対して大動脈瘤切除術の手術件数が4か月間で1件以上あった施設は174施設中113施設で全体の65%であった。各施設の大動脈瘤切除施行件数の中央値は4件であったが、最小0件、最大95件と、施設間で大きなバラツキがみられた。また、大動脈瘤切除のおよそ8割は非破裂性大動脈瘤・腸骨動脈瘤において施行されたものであった。

【特掲診療料施設基準 該当施設数の検討】MDC05に分類された冠動脈バイパス術・体外循環を用いる手術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲 05xxxxx

分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
							5	10	25	50	75	90	95
全循環器系疾患	冠動脈バイパス術以外の人工心肺使用件数	2,056	11.8	17.3	0	160	0	0	0	6	18	29	38
	人工心肺を伴う冠動脈バイパス術(CABG)	437	2.5	4.6	0	21	0	0	0	0	3	9	14
	人工心肺を伴わない冠動脈バイパス術(OPCAB)の施行割合	1,282	7.4	11.4	0	79	0	0	0	2	11	22	30



【図の説明】

：人工心肺を伴わない冠動脈バイパス術 (OPCAB) [Kコード: K588]

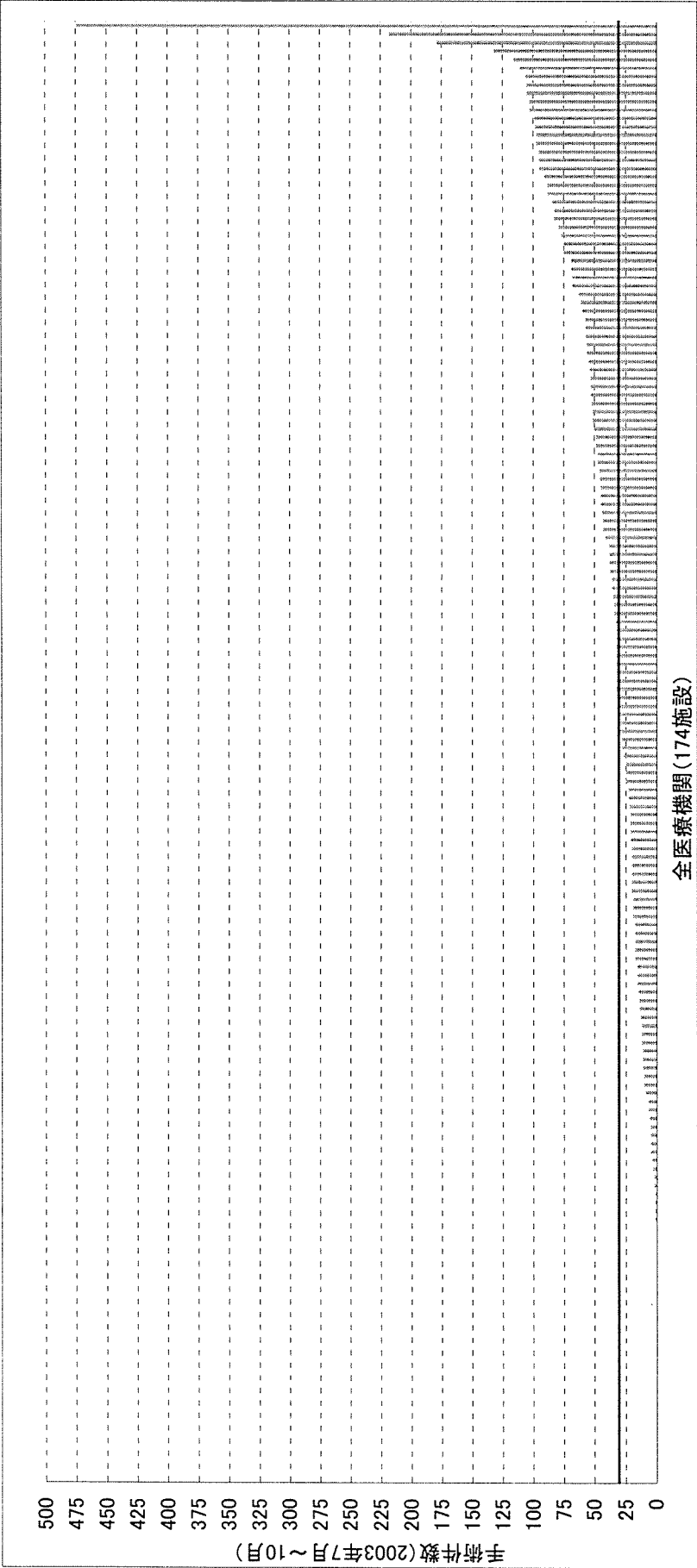
：人工心肺を伴う冠動脈バイパス術 (CABG) [K手術コード: K588およびK598]

【コメント】

現行の診療報酬制度（平成16年版）では、冠動脈バイパス術・体外循環を伴う手術件数を年間100症例以上行う医療機関には診療報酬が5/100加算されることから、本データにおける加算対象施設数を調べた。本解析のデータ収集期間は4か月であるため、年間100件に相当する34件/4ヶ月で補助線を引いた。その結果、全体（174施設）の25%に相当する44施設がこの条件を満たしていた。

【特掲診療料施設基準 該当施設数の検討】MDC05に分類された経皮的冠動脈インターベンション手術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲 05xxxxx												パーセンタイル				
分類名	解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95			
全循環器系疾患	PCI総件数	6,652	38.2	49.3	0	474	0	0	6	28	53	94	104			



【図の説明】

経皮的冠動脈インターベンション[Kコード:K614, K614-2, K614-3, K615]

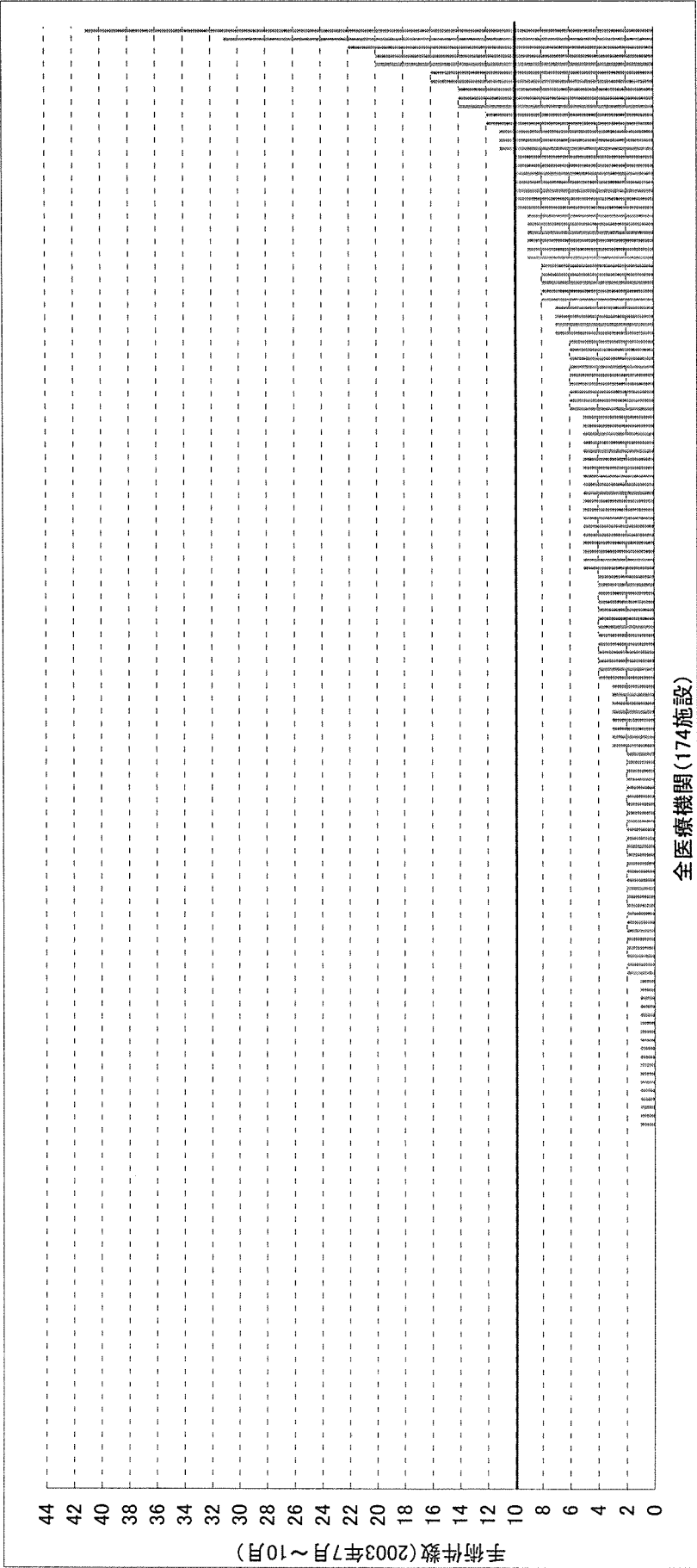
【コメント】

現行の診療報酬制度(平成16年版)では、経皮的冠動脈インターベンション手術件数を年間100症例以上行う医療機関には診療報酬が5/100加算されることから、本データにおける加算対象施設数を調べた。本解析のデータ収集期間は4ヶ月であるため、年間100件に相当する34件で補助線を引いた。その結果、全体(174施設)の41%にあたる71施設がこの条件を満たしていた。

【特掲診療料施設基準 該当施設数の検討】MDC05に分類されたペースメーカー移植術・交換術の施行件数

解析対象DPC番号の範囲 05xxxxx

解析対象DPC番号の範囲 05xxxxx														
分類名		解析内容	手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル						
全循環器系疾患								5	10	25	50	75	90	95
		ペースメーカー移植術および交換術	754	4.3	5.5	0	41	0	0	1	2	6	10	14



【図の説明】 全医療機関(174施設)

ペースメーカー移植術または交換術[Kコード:K552またはK554]

【コメント】

現行の診療報酬制度(平成16年版)では、ペースメーカー移植術と交換術を年間50症例以上行う医療機関には診療報酬が5/100加算されることから、本データにおける加算対象施設の数調べた。本解析のデータ収集期間は4ヶ月であるため、年間30件に相当する10件で補助線を引いた。その結果、全体(174施設)の13%にあたる22施設がこの条件を満たしていた。

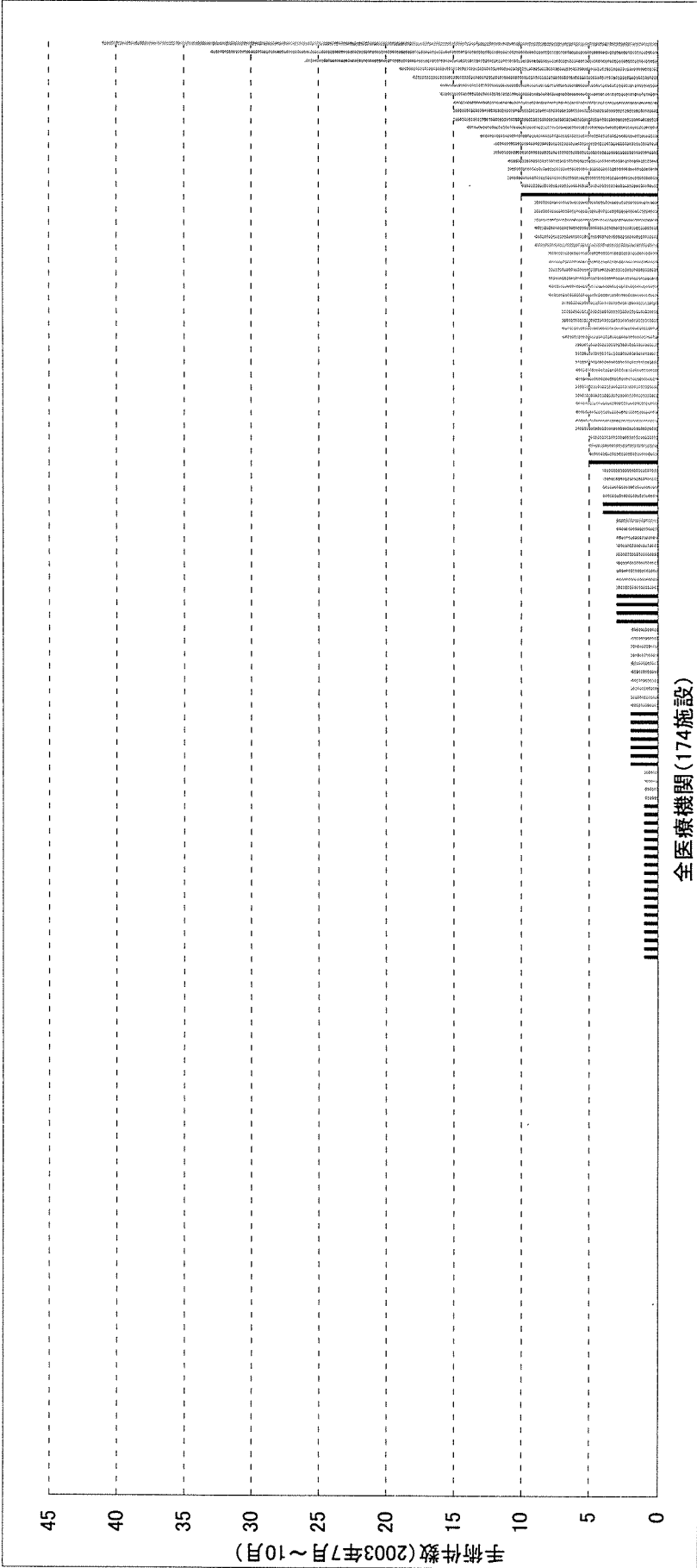
MDC06

消化器系疾患、
肝臓・胆道・膵臓疾患

食道の悪性腫瘍の手術件数

解析対象DPC番号の範囲 0600103x01および0600103x02および0600103x03および0600103x04および0600103x05

解析対象DPC番号の範囲							0600103x01および0600103x02および0600103x03および0600103x04および0600103x05								パーセンタイル				
分類名	解析内容		手術件数	平均値	標準偏差	最小値	最大値	5	10	25	50	75	90	95					
食道の悪性腫瘍	手術件数		661	3.8	5.9	0	41	0	0	0	2	6	10	15					
	特定機能病院件数		593	7.8	6.9	0	41	2	2	3	6	9	15	18					
	その他の参加病院件数		68	2.0	1.8	0	10	1	1	1	1	2	4	4					



【図の説明】

特定機能病院

食道の悪性腫瘍に対する手術には、消化管再建手術を伴う食道切除術／頸部郭清術が含まれる

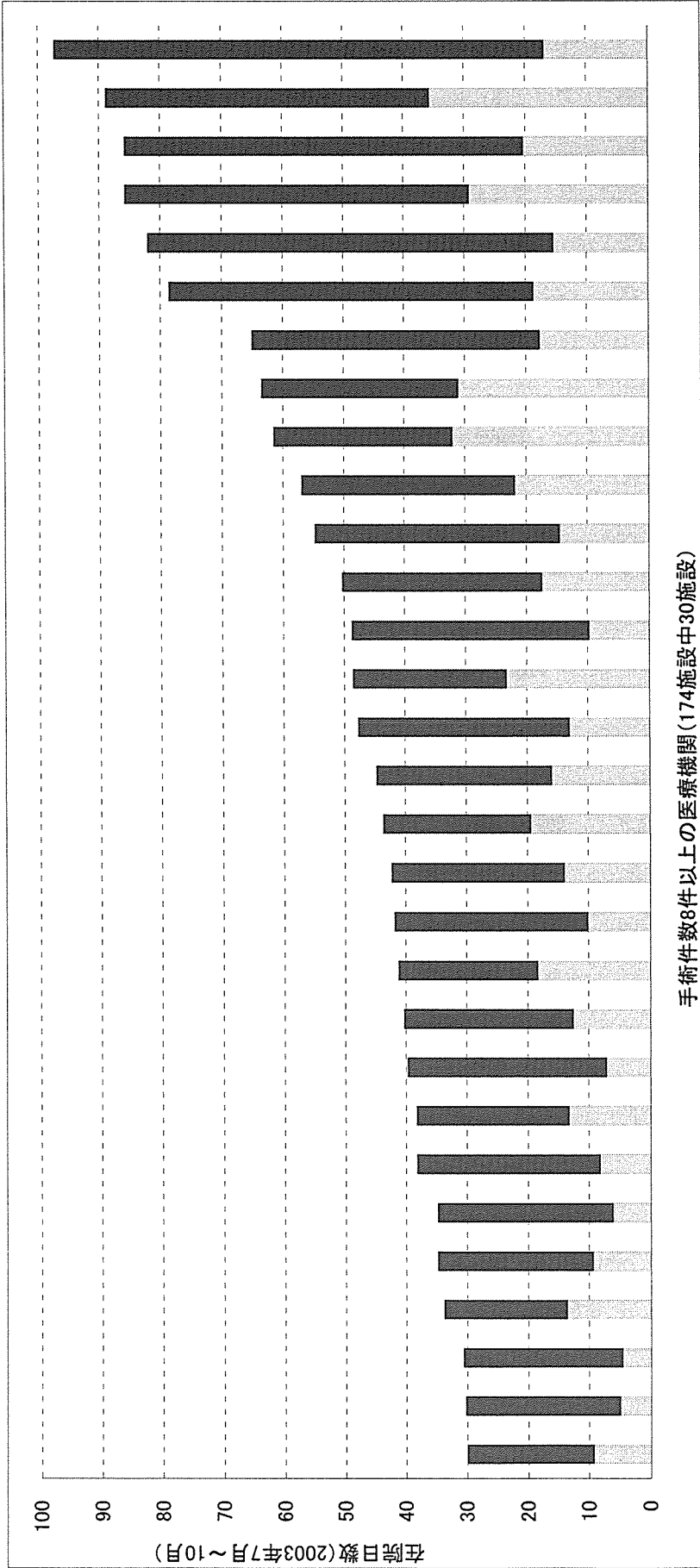
その他の参加病院

【コメント】

- 食道の悪性腫瘍の手術件数1件以上の医療機関110施設(全体の63%)において見られた。
- 食道の悪性腫瘍の手術数が多い医療機関は、特定機能病院に多く見られた。

食道の悪性腫瘍に対し手術を施行した症例における平均在院日数(N = 390)

解析対象DPC番号の範囲		0600103x01および0600103x02および0600103x03および0600103x04および0600103x05											
分類名	解析内容	平均値	標準偏差	最小値	最大値	パーセンタイル							
食道の悪性腫瘍	在院日数	52.7	19.7	30.1	97.4	5	10	25	50	75	90	95	
	術後在院日数	36.7	15.5	20.3	80.6	30.5	33.5	38.7	46.3	63.0	85.9	87.6	
	術前在院日数	16.0	8.0	4.6	35.6	21.9	24.3	25.7	31.0	40.0	60.7	66.3	
						5.4	7.0	9.8	14.9	19.1	29.3	31.5	



【図の説明】

外れ値両側5%を除外し、件数上位25%(4件以上)の施設を解析対象とした。

術前在院日数

術後在院日数

【コメント】

・食道の悪性腫瘍手術の平均在院日数には、医療機関でバラツキが見られた。